

公益財団法人 中国残留孤児援護基金

平成25年度

介護状況調査の結果（概要）

I 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査の対象
- (3) 調査基準日
- (4) 調査の期間
- (5) 調査の方法
- (6) 調査結果の取りまとめ

II 調査結果の概要

1 回答者（集計対象者）の概要

- (1) 区分（孤児・配偶者、本人・配偶者の区分）
- (2) 性別、年齢
- (3) 居住地

2 回答の集計結果の概要

- (1) 現在の健康状態について
- (2) 身辺自立度について
- (3) 要介護認定調査について
- (4) 介護サービスの受給について
- (5) 受給サービスの種類について
- (6) 受給サービスについての感想（評価）
- (7) その他介護に関する要望等
- (8) 介護サービスを受給していない理由

◆現在介護サービスを受けていない者の意見、要望等

I 調査の概要

(1) 調査の目的

この調査は、援護基金が中国帰国者本人と配偶者の介護に関する現状と考え方を調べ、今後の援助の在り方を検討する資料とするために実施した。

(2) 調査の対象者

援護基金が機関紙「援護基金」を送付している帰国者本人とその配偶者。

(3) 調査基準日

平成25年12月1日

(4) 調査の期間

平成25年12月～平成26年4月

(5) 調査の方法

質問紙調査（アンケート調査）法により実施。

上記「調査の対象者」の各世帯宛に、援護基金機関紙「援護基金第71号」に調査依頼書と「介護に関する調査票」※、返信用封筒（受取人払い）を同封して郵送。なお、依頼書と調査票は中国語に翻訳したものを使用。

※ 原則として各世帯に帰国邦人「本人用」と「配偶者用」の調査票（兼回答用紙）を同封したが、本人または配偶者のいずれか一方だけ居住していることが事前にわかっている場合には、調査票を1部だけ送付した。

(6) 調査結果の取りまとめ

2,536世帯に調査票を送付したが、21世帯が宛先不明で不達。調査票が届いたと見られる2,515世帯のうち、1,035世帯から1,635名分の返信があった（世帯単位の返信率：41.2%）。

この返信分から、調査票への記入がほとんどないものや調査とは無関係の内容について記述してあるもの、及び対象者の死亡を知らせるもの27通を除いた分（1,608名分）を今回調査の「回答」とし、集計分析を行った。

II 調査結果の結果

※集計数字の処理法

- 1 集計の対象者は合計1,608名であったが、質問毎に見ると必ずしも全員が回答していない質問もある。したがって、各質問に対する回答の集計は、その質問への回答が無いものを「不明」として回答数から除外して集計した。
- 2 パーセンテージは原則として小数第二位を四捨五入した値で表すこととした。

1 回答者（集計対象者）の概要

(1) 区分（孤児・婦人等、本人・配偶者の区分）

回答者1,608人の区分は次のようになっている。約9割が孤児本人またはその配偶者である。

孤児本人	816人 (50.7%)
孤児配偶者	621人 (38.6%)
婦人等本人	164人 (10.2%)
婦人等配偶者	7人 (0.4%)

(2) 性別、年齢

本人が申告した年齢は満年齢であったり数え年であったり様々であるため、援護基金のデータベースにある生年月日データから計算した年齢を元にしたが、データベースに生年月日情報がない者（特に配偶者に多い）については本人申告年齢を用いた。

年齢不明の2名を除く1,606人の平成25年12月1日現在の平均年齢は72.1歳。

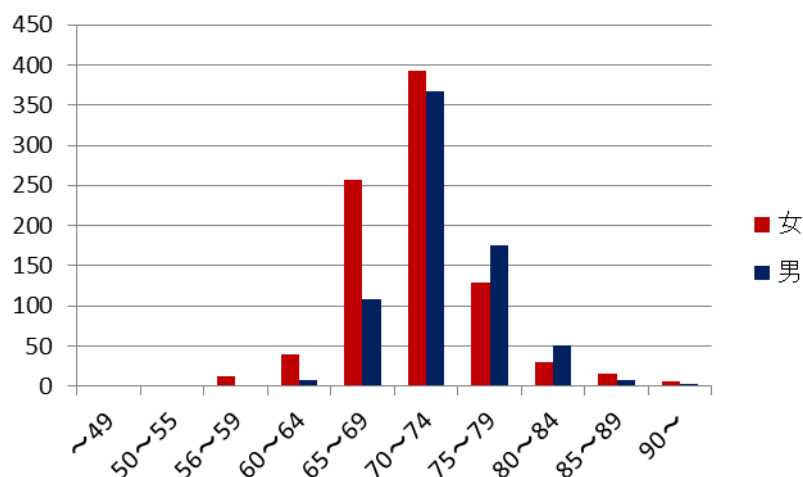
	人数	平均年齢	年齢不明
男	719人	73.2歳	1人
女	887人	71.3歳	1人
計	1,606人	72.1歳	2人

5歳区切りで年齢構成を見ると、男女ともに「70～74歳」の層が最も多く、男性の約4分の3が「70～79歳」に、女性の約4分の3が「65～74歳」に集

中している。

年代	男 (%)	女 (%)	計 (%)
～49		2 (0.2)	2 (0.1)
50～54		2 (0.2)	2 (0.1)
55～59		13 (1.5)	13 (0.8)
60～64	8 (1.1)	40 (4.5)	48 (3.0)
65～69	108 (15.0)	257 (29.0)	365 (22.7)
70～74	367 (51.0)	393 (44.3)	760 (47.3)
75～79	176 (24.5)	129 (14.5)	305 (19.0)
80～84	50 (7.0)	30 (3.4)	80 (5.0)
85～89	7 (1.0)	15 (1.7)	22 (1.4)
90～	3 (0.1)	6 (0.7)	9 (0.6)
計	719人 (100)	887人 (100)	1606人 (100)

年齢不明 1 1 2



(3) 居住地

回答者1, 608人中の約47%が東京、神奈川、埼玉、千葉の1都3県に居住し、中でも東京には462人、全体の約29%が集中している。

	北海道	33	33				
東北	青森県	10	81	近畿	兵庫県	39	
	秋田県	5			大阪府	137	
	岩手県	7			京都府	52	
	宮城県	21			滋賀県	11	255
	福島県	19			奈良県	5	
	山形県	19			和歌山県	3	
					三重県	8	
関東甲信越	茨城県	13	895	中国四国	岡山県	12	
	栃木県	17			鳥取県	0	
	千葉県	65			島根県	2	
	埼玉県	87			広島県	49	103
	群馬県	16			山口県	5	
	東京都	462			愛媛県	2	
	神奈川県	147			香川県	9	
	新潟県	17			高知県	24	
	長野県	52			徳島県	0	
	山梨県	19					
東海北陸	静岡県	8	124	九州沖縄	福岡県	53	
	愛知県	78			大分県	8	
	岐阜県	13			佐賀県	2	
	富山県	7			熊本県	13	117
	石川県	11			鹿児島県	21	
	福井県	7			長崎県	12	
					宮崎県	2	
					沖縄県	6	
				計		1608	

2 回答の集計結果の概要

(1) 現在の健康状態について

(全員に対して)

問1 あなたの現在の健康状態はどうか。 ※自由にお書きください。

回答は自由記述によるものであるが、その内容を次の3種類のいずれに相当するか判断して分類した。

A: 「健康」「まあ健康の部類に入る」「一般的」等の記述やプラス思考的な記述。いろいろ病名を列挙していても、年齢相応のことで深刻ではないと自分で考えている場合も含む。

B: 「健康に問題を抱えている」等の記述のほか、マイナス思考的記述や通院・治療等が生活の大きな部分を占めつつあると見られる記述。

C: 「重病」「寝たきり状態」「入院中」等、深刻な記述。

この問の回答者1,601人の結果は、Aが44.6%、Bが49.8%、Cが5.6%となった。

健康状態	~49	50~ 54	55~ 59	60~ 64	65~ 69	70~ 74	75~ 79	80~ 84	85~ 89	90~	年齢 不明	計	%
A健康(まあ健康)	2	2	9	16	185	337	129	23	10	1		714	44.6
B問題有り			4	31	172	385	142	49	9	4	1	797	49.8
C重病				1	8	34	31	8	3	4	1	90	5.6
計	2	2	13	48	365	756	302	80	22	9	2	1601	100

この問の回答と回答者の年齢層との関係を見ると、BまたはCと答えた者の割合はほぼ年齢とともに大きくなり、70歳以上になると半分以上の人がBまたはCと答えている。

	~49	50~ 54	55~ 59	60~ 64	65~ 69	70~ 74	75~ 79	80~ 84	85~ 89	90~	計
B+Cの割合(%)	0	0	30.8	66.7	49.3	55.4	57.3	71.3	54.5	88.9	55.4

(2) 身辺自立度について

(全員に対して)

問2 あなたは日常生活において、自分で身の周りのこと（着替え、食事作り、買い物、トイレ、入浴など）をどのくらい出来ますか。

1. 身の周りのことは全部出来る、又はほとんどできるので日常生活に支障はない。
2. 日常生活に支障が生じているので、家族などに手伝ってもらっている。
3. 日常生活のほとんどを他の人に介助してもらっている。

身の周りのことを自分でできるかを聞いた。この問に対する回答者1, 585人の結果は次の通り。(ただし、回答者の中には1と2の両方に○を付ける等、複数を選択した者も少なくなかった。このような場合には、支障度が高い方を回答とした。)

1 支障なし	66. 2%
2 支障あり、手助けが必要な部分もある	25. 8%
3 ほぼ全面的に手助けが必要	8. 0%

回答者の年齢層とこの問の回答との関係を見ると、やはり年齢とともに周囲の介助等が必要となる者の割合が高くなっている。

身辺自立度	年代	～49	50～ 54	55～ 59	60～ 64	65～ 69	70～ 74	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90～	年齢 不明	計
1.支障なし		2	2	13	34	253	518	178	37	10	1	1	1049
2.支障あり、要手助け					12	89	190	78	29	8	3		409
3.ほぼ全面的に要手助け					2	16	45	43	11	4	5	1	127
計		2	2	13	48	358	753	299	77	22	9	2	1585
無回答						7	7	6	3				23

身辺自立度	年代	～49	50～ 54	55～ 59	60～ 64	65～ 69	70～ 74	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90～
上記2.+3.の率(%)					29.2	29.3	31.2	40.5	51.9	54.5	88.9
上記3.の率(%)					4.2	4.5	6.0	14.4	14.3	18.2	55.6

(3) 要介護認定調査について

(全員に対して)

問3 あなたは介護保険の要介護認定調査を受けましたか。

1. わからない。(自分がそのような調査を受けたかどうかわからない、記憶にない。)
2. 認定調査を受けたことがない。
3. 認定調査を受けた。→ その結果を以下から1つ選んでください。
 - ① 認められなかった ② 要支援1 又は要支援2
 - ③ 要介護1 ④ 要介護2 ⑤ 要介護3 ⑥ 要介護4
 - ⑦ 要介護5

この問の回答欄に無記入の者が多かった。しかし、別の問で介護サービスを受けていると答えていれば、認定調査を受けていることは明らかである。また、介護サービスを受けておらず、かつ、受ける必要も感じていないと答えている者であれば、この問の回答は1または2となる可能性が高い。また、他の記述欄等に、認定調査を含め介護の仕組みについてまったく知らないと記述している者も少なくなかった。このような者の回答も1または2となろう。

このように、回答欄に無記入であっても他の欄への回答等からこの欄への回答が容易に推定できる場合は、推定値を回答として扱った。

要介護認定調査を受けた記憶のない者、または受けたことがない者が全体の8割近くに上った。

調査済みとは答えているが、調査結果(認定結果)について答えない者(「詳細不明」)が50人いた。

要介護認定調査	人	%
1不明、2未調査	1264	79.3
3調査済み	329	20.7
①不認定	52	3.3
②要支援1, 2	86	5.4
③調査済 要介護1	45	2.8
④要介護2	33	2.1
⑤要介護3	22	1.4
⑥要介護4	25	1.6
⑦要介護5	16	1.0
詳細不明	50	3.1
計	1593	100

無回答

15

(4) 介護サービスの受給について

(全員に対して)

問4 あなたは現在、公的な介護サービスを受けていますか。

1. 受けている。
2. 受けていない。

この問の回答欄にも無記入の者が多かった。しかし、無記入であっても他の問の回答内容から容易に推定できる場合は、推定値を回答として扱った。

なお、現在受給していないが以前受給したことがあることが他の記述等から明らかでない場合は、それを区別して集計した。

現在介護サービスを受給している者が約13%、以前受給したことがある者も含めて現在受給していない者が約87%となっている。

介護サービス受給	人数	%
1現在受給	208人	(13.1%)
2受給なし	1371人	(86.3%)
3以前受給経験あり	10人	(0.6%)
計	1589人	(100%)

各年齢層における現在受給している者と以前受給したことがある者の合計の割合(「受給率」)を見ると、年齢層が高くなるに連れて介護サービスの受給率も高まることがわかる。70歳を過ぎると受給率が1割を超え、75歳以上では2割を超えている。

受給状態	年代	～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	年齢不明	計	%
1現在受給					2	27	88	60	19	7	4	1	208	13.1
2受給無し		2	2	13	45	336	659	237	57	15	4	1	1371	86.3
3以前受給経験あり					1	1	3	5					10	0.6
計		2	2	13	48	364	750	302	76	22	8	2	1589	100
無回答						1	10	3	4		1		19	
受給率(%)					6.3	7.7	12.1	21.5	25.0	31.8	50.0	50.0		13.8

(5) 受給サービスの種類について

(現在介護サービスを受給している者に対して)

問5 あなたが現在受けている介護サービスはどれですか。

1. 自宅にヘルパーさんに来てもらっている（訪問介護）
2. 介護施設に朝から夕方まで出向いている（通所介護）
3. たまに介護施設に泊まっている（短期入所）
4. 介護施設に常時入所している（施設入所）※入所施設名と地域を教えてください。
5. その他

前問で現在介護サービスを受給していると答えた者208人中の197人が受給しているサービスの種類についても回答している。

回答者197人中、訪問介護を受けている者が65.5%、通所介護を受けている者が44.2%と多く、短期入所や施設入所は1割に達していない。

なお、1人で複数の種類のサービスを受けている場合もあるため、合計が100%とはなっていない。

また、「その他」は介護器具、特殊寝台のレンタルである。

受給中のサービス	件数	割合(/197人)
1 訪問介護	129	65.5%
2 通所介護	87	44.2%
3 短期入所	10	5.1%
4 施設入所	16	8.1%
5 その他	2	0.1%
計	244	123%

受給サービス不明 10

(6) 受給サービスについての感想（評価）

（現在介護サービスを受給している者に対して）

問6 現在受けている介護サービスについてどう思っていますか。

1. 満足している又はまあまあ満足している。
2. 中国語が通じないので、思った通りのサービスが受けられていない。
3. 満足していない。
4. その他

サービス受給者208人の回答であるが、無回答の者が多かった。また、複数の選択肢に○をつける等、矛盾した内容となっている場合も少なくなかった。

回答者の多くが「1 満足している又はまあまあ満足している」と答えているが、その中には中国語によるサービスが受けられていて満足しているとの記述があるものも含まれる。

また、「1」と答えた者の中で、次の「(7) その他介護に関する要望等」において現在受けているサービスについての不満等を記述している者も少なくない。

介護サービスへの感想	件
1 満足、まあ満足	129
2 中国が通じない点が不満	36
3 不満	11
4 その他	3
計	179

(7) その他介護に関する要望等

（現在介護サービスを受給している者に対して）

問7 現在受けている介護サービス以外で、介護に関する要望があれば具体的に教えてください。（※自由にお書きください。）

現在受けている介護サービス以外で、と聞いているが、回答の中には現在受けているサービスについてのことも含め、様々な要望、意見、苦情等が書き込まれた。

最も多かったのは中国語対応に関係するものだった。中国語対応がなくて困っているというもののほか、現在のサービスに基本的に満足している者でも、中国語対応があるから満足という者と、まあ満足はしているが中国語対応があ

ればもっといいのに、という者があり、この欄への記述の大多数は中国語対応に関わっていると言える。

- ・ 現在家に来ている介護員が中国語が分かるので、不便なことはない。
- ・ 現在の介護はなかなか良い。中国語もある。今のところ、別のサービスは必要としていない。
- ・ デイ・ショートを利用したいが、今の業者はまだ拡大していないので、別施設ができるのを待っている状態。今の事業所に中国人のサービス提供責任者とヘルパーがいるので、すべて任せている。
- ・ 私が介護を受けているのは中国人であり、言葉は通じるし料理も口に合う。しかし、私が住んでいる〇〇区には中国人の介護がなく、〇区や〇区からヘルパーが来るのは遠くて大変である。すべての区に中国人ヘルパーがいれば良いと思う。
- ・ 基本的に満足しているが、言葉の問題が残る。
- ・ 今受けている介護サービスにはまあまあ満足しているが、中国語で会話できる施設が近くにあれば利用したい。
- ・ 2013年5月にデイサービス施設の支援を受け始めた。毎週5回、料理や介護支援一般を受けているが、まずまずだ。しかし、日本語がよくわからないので、少し問題がある。
- ・ 言葉が通じないので、意思疎通上の障害があると感じている。中国語ができる職員のいる施設であればいいのと思う。
- ・ 介護施設は皆日本人であり、中国語を話せる人がいない。できれば、中国語のできる職員が一人でもいたらよい。
- ・ デイサービスに行っているものの言葉が通じなくてコミュニケーションができず辛い思いもしているので、中国語が通じる施設があれば教えてほしい。
- ・ 中国語が通じないため、家族にかなり負担がかかっている。施設に入りたいが、なかなか見つからない。日本語も分からない。
- ・ 夫は脳血栓、半身不随、私は日本語が出来ない為、しんどい。私は学校に行ったことが無いので、読み書きが出来なく、生活が大変である。
- ・ 将来、老人ホームに入居した際に、言葉が通じず具合が悪くても伝えられなくなることを思うと大変不安。
- ・ 買い物や料理をするヘルパーは中国語ができる人がいい。

.....

自宅での介護、家族による介護を望む声も多く、それに関連して住居等の問題についての要望もあった。

- ・ できれば自分の家で家族の世話になりながら暮らしたい。
- ・ 現在老人施設に入所しているが、やっぱり自宅に帰りたい。

- センターに送迎する車があるが、言葉の問題があり、お風呂に行くときは私に拒まれている。やはり老後は家で過ごすことを希望する。
- 家に来て介護してもらえるのが一番いい。ただし、サービス員は中国語のできる人を望む。
- 介護福祉協同サービスから車椅子、特殊寝台、移動用リフトを借りて生活している。家族が介護してくれ、夜も孫と一緒にいるので安心。外の人間では安心できない。都営住宅に家族と一緒に自由に住むことができないことが不安なこと。
- 生活課の担当が通訳してくれる。(二回から一階への引っ越しができたこと、生活課の職員がよくしてくれたこと、感謝等の記述)
- 週2回の入浴サービスを受けており、大変助かる。足腰も弱くなってきていて上り下りに大変な為、歩行補助器を利用したいのだが、今住んでいる都営住宅の入り口の所にも部屋にも段差があるので使いにくい。
- 現在の住宅では車椅子の移動ができない。できれば車椅子の移動ができる家で、介護の手助けをしてもらいながら生活したい。
- 病院が自宅から離れている距離にあり、妻も多くの病気がある為、一人で見舞いに来ることも出来ず、辛い。妻が病院の近くに住めるようにしてほしい。
- 今はまだ大丈夫だが、日本語で話が出来ない。電話のベルが鳴ると悲しい。耳も遠くなった。今は子どもが良く面倒を見てくれる。私は幸福だと思っている。

.....

自宅での訪問介護を望む者の中には、介護の時間や回数についての意見も多い。

- 介護時間が短いので、もう少し長くして欲しい。／1時間は短すぎる。／現在の介護サービス時間(20分)をもう少し長くして欲しい。／もっとヘルパーに来てもらいたい(現在2時間のみ、不足)。
- ヘルパーさんは毎週2回しか来られなくて、お風呂の介護を受けているが、平日の食事についても手伝って欲しい。／介護サービスが週2回と少なく、家の負担が大きい。もっと回数を多くして欲しい。／清掃は週に1回だけだが、できれば2、3回清掃してほしい。
- これから先の事を考えると、サービスに入ってもらう日数も、時間ももっと増やして欲しい。
- 勝手に訪問回数を増やし、本人にとって精神負担となり、生活リズムが乱れている。精神面でも体力面でも耐えられない。

.....

一方では、中国語対応ということと関連するが、帰国者専用の介護施設の設

置とそういう施設への入所を望む声も少なくなかった。

- ・ もしも帰国者向けの介護施設ができるのであれば、居住できるような施設がいい。妻が家で私の世話をしてくれているが、妻の身体も良くなく、大変な苦労だと思う。
- ・ 夫は日本語ができないし認知症なので、施設内で孤独だ。自分も学んだ日本語を忘れてきているので、外との交流がほとんどない。〇〇市に帰国者専用の施設を作ってほしいと願っている。
- ・ 娘は二人ともアメリカで暮らしており、世話になれないため、今後が心配。帰国者専門の老人センターを建ててもらって、二世三世に働いてもらえば、言葉の心配もない。このような願いをもっている。
- ・ 長期入所のできる施設へ入所したい。一番いいのは、村のグループホーム〇〇。これは、これは認知症対応の帰国者名義で建てられる施設。だが、いつから入所できるようになるかはまだ分からない。
- ・ 帰国者2, 3世代の運営する老人ホームがあったらいい。
- ・ なぜ病院はいつも転院させるのか、他の人の場合はそうでないのに。

.....

費用等の問題についての記述もあった。

- ・ 料金を安くしてほしい。ボランティアが望ましい。
- ・ 介護サービスを受けているが、介護員は私を病院に連れて行く。病院内の各科で診察を受けるときの費用は私が払うことになる。家から病院に行くときは公費だ。
- ・ 夫婦二人とも身のことができなくなったらどうすればいいか。現在の支援給付金は足りない。長期短期の入所は不可能だ。
- ・ 母と私(三男)二人で暮らしている。私は4年前に胃癌手術をし、体も悪く、母の介護の為、仕事を辞めた。生活保護毎月額 38,000 円で生活している。妻とは別々に住んでいる。仕事の為に。しかしこれからは生活保護を申請する。介護が必要な為。

.....

(8) 介護サービスを受給していない理由

(介護サービスを受給していない者に対して)

問8 あなたが公的な介護サービスを受けていない理由を教えてください。

1. 健康であり、介護の必要がないため。
2. 介護の必要は感じているが、家族の助けを借りて生活していきたいため。
3. 介護の必要を強く感じているが、介護を受けられていない。

→以下、該当するものに○

- ① どのように手続きすればいいのかわからないままになっている。
- ② 申請しているが、適当な施設が見つからないままになっている。
- ③ 前に利用したことがあるが、中国語が通じない等、自分が望むサービスを受けられないので止めた。
- ④ その他

現在介護サービスを受けていない人のうち、1,056人が回答。

回答者の約7割は、1 現在健康であるため介護を必要としていないと答えている。

2を選択した者は、介護の必要性は感じているができるだけ家族の中で老後生活を送りたいと考えている者で、これが23%を占めた。

「3 介護の必要性を強く感じているが受けられていない」と答えた者が約14%いたが、その約半数が「手続きがわからない」というものである。

介護サービスを受けない理由

	人	%
1健康なので介護は不要	733	69.4
2必要を感じるが家族の助け	243	23.0
3必要だが受けられず	147	13.9
① ① ② ③ ④	69	6.5
① ② ③ ④	14	1.3
① ② ③ ④	18	1.7
① ② ③ ④	35	3.3
① ② ③ ④	11	1.0
計(1056人)	1123	106.3

合計が100%を超えているのは複数の回答を行っている者がいるためであるが、その多くは、現在はまだだじょうぶだが近い将来介護が必要になったら…という考えから複数を選択したものと見られる。

この問の「④その他」を選択した場合の詳細を記述するための記述式回答欄が設けられているが、結果的にこの欄が、「④その他」を選択するしないにかか

ならず、現在介護サービスを受給していない者が介護についての考えを書き込む場所となったが、このような書き込みは、この欄だけではなく、問の内容と無関係に他の記述式回答欄にも、あるいは欄外の余白部分にも、散文的に記述されている。

◆現在介護サービスを受けていない者の意見、要望等

- ・ 介護は受けたくない。
- ・ 自分で生活できなくなったら考える。
- ・ 介護のことについては、まったく分からない。
- ・ (介護について) どういう状況か言いづらい。介護についてはよくわからない。

.....

現在サービスを受けていない者の記述には、このように、介護については考えていない、考えたくない、ほとんど考えたことがない、という回答も多かったが、やはり先々に対する不安感を帯びたものが大半であった。

- ・ 現在は受けていないが、将来は分からない。
- ・ 現在は介護を必要としていないが、後には可能性もある。
- ・ 現在は介護不要だが、いつごろ必要になるか、何とも言えない。
- ・ 現在は古稀の歳だが、近い将来どのような介護が必要となるか、自分にも分からない。
- ・ 今はなんとかがんばって自立しているが、いつか介護が必要なときがくるだろう。そのときはどうすればいいのだろう。
- ・ 今は健康には心配ない。しかし、将来的に必ずこの問題が出てくるとすれば、どうすればいいか、不安。
- ・ 主人と二人で生活しているが、主人の健康状態が良くない。今後二人で寝たきりになったらどうしようと大変心配。
- ・ 現在は支障がないが、年々足等弱くなっている感じがするので、いずれ利用せざる得ないと感じている。
- ・ 今はとても健康だ。将来のことは分からないが、もしも身体が不自由になったときには介護サービスを受けられるのだろうか？
- ・ 今はときどき具合が悪くなったときに妻が介護してくれるが、将来妻の健康でなくなったときには介護サービスを受けられるのだろうか？

.....

日本語ができないことと将来の不安とが結びついているものが多い。

- ・ もう少しがんばって、だめになったら介護の申請をするつもりだが、日本語ができない。

- いろいろ老人病はあるが、夫と互いに助け合いながら身の回りのことは自分でできている。しかし、今後のことを考えると、大変不安である。言葉が通じないので介護サービスも受けられないと思う。
- 中国語が通じないと不便だと思うから今は介護を必要としていない。一人で元気だ。
- 日本語ができないので、今後の介護のことは大変難しい問題だと思い悩んでいる。
- 言葉が解らないので、将来思った通りのサービスが受けられないと思う。日本語学校で学習したことがなく、生活のためにずっと60歳まで仕事をしてきた。生きていくために何とか自立してきたが、言葉が通じず、どうして介護が受けられるだろうか。
- 言葉が通じないので、家族とともに在宅サービスを受けるのならいいが、一人でデイサービスに通うのは自信がない。
- 言葉が通じないので、普通の施設を利用できない。
- 今後介護問題が大きな問題となる。日本語ができないため、介護員との意思疎通ができないからだ。帰国者にとってはこれは悩ましい問題だ。
- 身体が続く限り頑張るが、今後どうなるか心配。着替え、トイレ、入浴は何とかできるが、買い物、食事作りは家族に依存。日本語が話せないので困っている。
- 日本語が分からないので、いても楽しくないと施設に行くのを断念した。
- 言葉が不自由な人は自宅での介護を希望し、施設には入りたくない。
- 中国語ができるヘルパーに介護を担当してもらいたい。中国語ができる介護職員から成る施設に、今後の我々の老人介護の仕事を担当してほしい。
- 施設に中国語サービスが増えることを願っている。
- 介護が必要になったら、中国語ができる介護士に来てもらうのが望ましい。重病の時は家ではなく入院（入所）して介護を受けられればいいと思う。一番の問題は言葉が通じないということ。必要としていることが伝えられない。
- 帰国者の介護問題については、言葉の問題が一番重要だ。
- 現在は介護を受けていない。将来必要なときに中国語ができる職員のところがいい。残留孤児の最大の困難は、医療、介護、老人ホーム。病院での通訳、中国語のできる介護職員や老人ホーム。これは、孤児の心からの声。
- 現在は介護を受けていないが、今後介護が必要になるかもしれない。帰国者の1代は多くの人が日本語がそんなに出来ないなので、施設には中国語が出来るスタッフがいて欲しい。交流や意思疎通が出来る為。また、人生の半分を中国で過ごした為、食事や娯楽等の活動も考慮して欲しい。
- 要介護4ではあるが、言葉が通じないので普通の施設を利用できない。中国

ができ生活習慣も近いヘルパーに来てもらって介護してもらうことを希望している。

.....

帰国者専用の施設を望む声も多い。

- 帰国者のために老人ホームを建ててほしい。
- 現在は介護を要しない健康状態にある。中国語のできる職員がいる「帰国者介護サービスセンター」が必要だ。
- 援護基金に、中国帰国者の老後の為の中国語で介護する施設を建設するよう、強く求めます。
- 自分のことができなくなった場合のことを考え心配している。援護基金に帰国者介護センターを建ててもらい、祖国で最期のときを迎えられるようにしてほしいと心から希望する。
- 孤児と配偶者には、できれば、専用の介護施設がほしい。…、今後介護サービスへのニーズが差し迫ったものになる。言葉の問題もあるので、適切な施設を整備することが必要と思われる。
- 娘は仕事が忙しく、しょっちゅう家で介護することはできない。言葉の問題もあるので、政府に帰国者の養老院を建ててほしい。
- 帰国者専用の中国語が分かる職員を配した養老院の建設、在宅訪問のヘルパーには中国語ができるひとの配置を望む。
- 帰国者は日本語がわからない。帰国者専用の介護施設をつくってほしい。今は介護を必要としていないが、いつ必要になるかもしれない。帰国者専用の施設がほしい。
- 帰国者専用の介護施設があることを切に望みます。言葉の壁、食事の違い、交流が出来ない、生活習慣も違う。

.....

経済的な不安を記述したものも少なくない。

- 現在介護は受けていない。もしも介護が必要となった場合、経済的な問題が最大の不安だ。私の年金はとても少ないが、何とか切り詰めて生活している状況。
- 介護サービスは受けていない。生活費がとても少なく、夫婦二人で毎月10万円だけで、必要費用を差し引くとほとんど残らない。介護にどのぐらい費用がかかるか分からないので、サービスを頼むことはしていない。必要な費用もわからない。

.....

すでに介護の必要を感じ始めた者なのだろう、具体的な手続きがわからないことを訴える記述も多かった。

- ・ 介護サービスについては全くわからない。今は自分でできている。もしも必要になったら、どのように申請すればいいのか？
- ・ 介護サービスを希望しているが、どのように申請したら良いかわからない。
- ・ いままで何の調査も受けたことがない。今後どのように申請するか、教えてほしい。
- ・ 介護が必要だが、介護について細かいことが分からず、何もやっていない。
- ・ 自分で身の回りのことができなくなったらどうすればいいだろう。区役所に聞いたこともない。決して大病をしないようにと心配している。団地の人が介護に行くのを見てとても不安になる。どうすればいいのか教えてもらえたらありがたい。
- ・ どこでやればいいのか、わからない。どうにか問題を解決してほしい。今介護をしてくれる人はいない。自分でやっている。介護の手続きはどうすればいいのか。どうか解決してほしい。手続きをしたことがない。
- ・ 手続きの仕方がわからない。今は自分で何とかやっているが、今後自分でできなくなったときにどう手続きすればいいかわからない。どのようにすればいいのか、具体的に示してほしい。”

.....

できるだけ家族で助け合って老後を暮らしたいという記述も多かった。

- ・ 外の人がうちに来たら、心が落ち着かない。
- ・ 家族が介護するのがいいと思う。互いに言葉が通じるから。
- ・ 娘達と一緒に暮らして世話をしてもらいたい。
- ・ 日常生活に支障があってもがまんする。夫も動くことができる。
- ・ 現在は自分でできているので、とりあえず介護は必要ないが、自分でできなくなったときには夫婦で互いに面倒を見ることでいい。
- ・ 子どもの近くに引っ越したい。子どもから少し助けてもらえればいい。しかし、十分に遠くはないということで住居の変更はできないとのこと。
- ・ もっと高齢化したら、子どもたちを頼ることができる。
- ・ 妻は介護を必要としている。私は病気があれば自分で通院治療できるし、まだ動けるので、妻の介護ができる。他人が（家に入る）必要はない。
- ・ 長年娘が付き添って病院に行っていた。娘に時間があつたということもあるが、こういうふうにするとても気楽、気軽でよかった。
- ・ 夫婦二人ともどうしても動けないときは、家で介護を受けたい。

.....